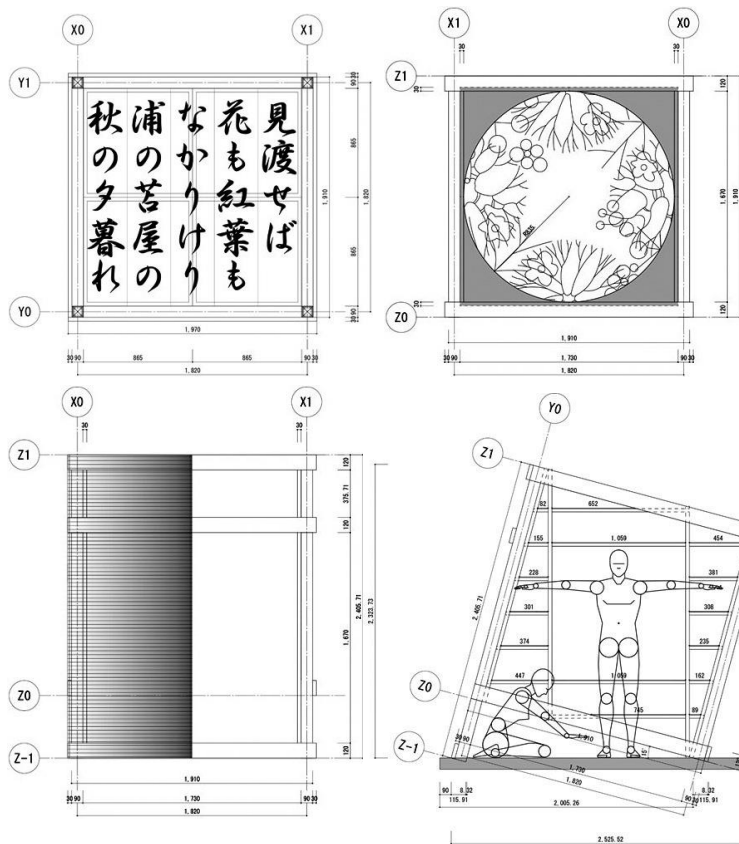


[説明資料(提出ファイル)] 発明・工夫作品コンテスト 製作の動機または目的, 利用方法, 作品自体やその製作過程で工夫したことを, 文章, 写真, 図などで説明。この用紙1枚に記入し, PDFに変換した後, web提出フォームにて提出する。

学校名	九州産業大学	個人・グループ名	諫見研究室	作品名	たてものがかりワークショップ 一坪の茶室4「斜堂(SHADOW)」
-----	--------	----------	-------	-----	--------------------------------------



見渡せば花も紅葉もなかりけり浦の苫屋の秋の夕暮れ
この和歌は藤原定家（ふじわらのていか/1162-1241）が新古今和歌集（しんこきんわかしゅう）に寄せたもので、現代語訳は「見渡してみると、美しい花も紅葉もここにはないなあ。傾いて朽ちた海辺の苫ぶきの小屋の秋の夕暮れなことよ」です。また千利休（せんりのきゅう/1522-1591）が侘び茶の精神を象徴すると好んだ和歌と伝えられます。和歌は天井に彫られ、影と光により床面に映り込みます。茶室「斜堂(SHADOW)」は、名前どおり斜めの建築物です。

上左：平面図 上右：背面図
下左：正面図 下右：右面図
(縮尺 1:60)



和歌の床面への投影



どの部材とどの部材が、どのように接合されているか。たてものがかりワークショップで、図面の読み方を理解します。



実物大でCADの図面を印刷しました。これを型紙にして、1枚のサブロク板から正確な部材を無駄なく加工できました。



斜めの建築物は部材の寸法が複雑でした。CADで詳細な寸法を測り、正確に部材を加工し、高い精度で組み立てました。
URL <http://isami.biz/?page=page57>

住居・インテリア設計学科2年生の私たちは、茶室「斜堂(SHADOW)」を設計し、「たてものがかりワークショップ」として、科目「CAD実習」・科目「製図実習」を履修する1年生や体験入学の高校生と製作しました。ところで両科目では多くの履修者が課題を「模様」として模写する傾向があり、正しい図面の読み方の理解や、部材相互の空間的位置関係の把握が不十分でした。ワークショップでは、設計した茶室の実現を通して、図面の正しい読み方を履修者に理解させました。またCADによる詳細な寸法測定、図面の型紙としての活用などから、部材を正確かつ材料の無駄がないように加工しました。これらにより施工難度が減り、私たちは斜めの建築物の茶室を、高い精度で組み立てることに成功しました。

